

## 第6回 吹田市総合計画審議会 会議録

- 1 日時 平成29年7月21日（金） 午後7時～午後9時
- 2 場所 吹田市役所 高層棟 4階 特別会議室
- 3 出席者 別添「出席状況一覧」のとおり
- 4 傍聴人 2名
- 5 資料

### (1) 配付資料

- |     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 資料1 | 総合計画審議会 部会編成（案）                  |
| 資料2 | 基本計画（素案）施策指標及び考え方等（平成29年7月21日時点） |
| 資料3 | 基本計画（素案）の検討経過と今後の進め方について         |
| 資料4 | 総合計画審議会 基本計画（素案）の検討スケジュール（案）     |
| 資料5 | 市民参画の取組状況について（平成29年7月21日時点）      |
| 資料6 | 吹田市第4次総合計画策定に係る市民団体リレーインタビュー報告書  |
| 資料7 | 総合計画市民ワークショップ「みんなで考えよう！吹田の未来」報告書 |

### (2) 追加資料

- 諮問書の写し
- 吹田市第4次総合計画 基本計画（素案）

## 6 議事要旨

### (1) 市長あいさつ

### (2) 吹田市第4次総合計画基本計画（素案）の諮問

総合計画基本計画（素案）のうち、Ⅰ．体系図、Ⅱ．政策・施策、Ⅲ．市民意識指標（体系別）について、市長から審議会へ諮問された。

### (3) 部会の編成について

事務局から、資料1を用いて部会の編成について、説明があった後、承認された。

### (4) 総合計画基本計画（素案）について

事務局から、総合計画基本計画（素案）について、資料2～7を用いて、説明があった。  
また、「Ⅳ．基本計画推進のために」について、別途諮問のうえ、専門部会による審議を行っていただく旨の事務局提案について承認された。

### 【審議内容】

会 長： 基本計画（素案）p.1～2、Ⅰ．体系図にある政策名・施策名が適切かどうか、あるいは、基本計画（素案）p.3以降、Ⅱ．政策・施策の現状と課題の示し方は、文章が良いのか、箇条書きが良いのかなど、全体に関してのご意見をいた

だきたい。

A 委員： 施策目標について、10年間の目標として適切かどうか疑問がある。5年後など途中の数値を示す方法もあるのではないか。10年は大雑把な印象がある。

事務局： 施策目標は平成30年度から平成39年度までの10年間を見据えた目標を提示している。大きな政策の方向性を示しているので、細かいところまでは言及していない。

会長： 指標は目標を数値として書くのが良いのか、方向性を書くのが良いのか、については、工夫の余地がある。10年後の目標を数値で掲げるのは予言に近い感覚もあり、10年後に評価しやすいように、あまり力を入れて設定しなくても良いのではないか。皆様ご意見いかがか。

B 委員： 目標を数値で表すことについては長所短所があるが、あくまで目標であって、予測ではないので、数値的に示された方がわかりやすい。

資料2を見ると、目標値の算出方法が「本市実績による」となっているが、目標数値の根拠を市民は知りたいのではないか。

C 委員： 目標数値が過去の実績に基づいて無理なくシミュレーションされた結果であれば、納得感がある。シミュレーション等に係る資料名などが書かれていれば、わかりやすいのではないか。

D 委員： 資料2は、表の順番がわかりにくいので、工夫するべき。

事務局： 資料2の構成について、「指標の根拠」と「目標値の考え方」が表の1つのマス目に混在した記載となっている点を整理し、わかりやすくなるように修正する。

E 委員： この総合計画は誰に向けて作っているのか。行政も頑張るから、市民も頑張るって、という記載があったほうが良いと考える。施策目標は誰を対象にするのか、誰が頑張るものなのか、行政だけが頑張るものなのか。たとえば、人数を指標としているものについては、ただ人数が増えれば良いのではない。何のための目標かが大事では。行政も市民も同じ目標を目指すための総合計画だと思う。

事務局： 行政計画ではあるが、市民の皆さんとともに実現していくことを目指していることは大前提である。指標についても、19政策の目標を達成するために施策目標を設定している。

E 委員： 目標を数字で表すことが適切な場合もあるし、「待機児童のないまちをめざします」のような文言の方が伝わる気もする。目標を数値で示すことにこだわらず、市が何を大事にしているかが書かれている方が、素直に受け止められる。

事務局： 総合計画は作ることが目的ではなく、作ったあとに達成することが目的であり、その進捗を把握する必要がある。そのためには数値目標が必要であり、各所管に目標値の設定を依頼した。第3次総合計画では数値目標は明確に示さな

かったので、別途数値を設定して管理している。具体的な約束をする方が、市民の皆様にはわかっていただきやすいかと考えている。数値目標を出すことに両面性があることはご理解いただきたい。

A 委員： 行政評価をするために目標値があるが、結局評価するのは市民である。行政評価よりアンケートを取る機会を作って市民の意識をはかることなどの方が大切では。

事務局： 総合計画は自治基本条例に基づいて作られているもので、そこには市民や事業者の責務も書かれており、協働で進めなければならないこと、また、行政評価によって施策の進捗状況の評価しなければならないことなどが定められている点をご理解をいただきたい。定性的な評価として、たとえば、吹田市は病院の数が多いが、そうしたことの認知度が低く、評価に表れていない。満足度を上げるということは、困難な目標であると思う。

B 委員： 吹田市の規模で、全般にわたり数値目標を設定しているのは、大きなチャレンジであり、評価できる。逆に数値がなくなると、総花的でどこにでもある総合計画になってしまう。ただ、この数値目標は概ね「できそう」なところを書いているように感じるが、夢物語でない現実的な数値とも評価できる。10年後に行政や市民の取組を客観的に評価できるようなものになればと思う。

事務局： 目標が低く感じられるものもあるかもしれないが、現状や社会状況の見込みなどから言えば、全般的に高い目標を設定しているものと考えている。

C 委員： 財政的な理由から公助には限界がある。自助や共助を促すことで、公助では不足する点を補うだけでなく、財政負担も抑えることができる。そうした考え方についても、文章で示すことができれば、財政面の問題にも対応できると考える。

事務局： 最後のページの「基本計画推進のために」では、財政計画を示すこととしている。これにより第4次総合計画は財政状況を踏まえ、現実を見据える中での10年の目標を、いただいた意見を参考にしながら、作っていきたい。

会長： 行政評価が充実すれば、見るべきポイントがわかるようになり、後で検証することが可能となる。市民にとってわかりやすい総合計画という意味では、目標値にこだわらなくてもいいとも思う。結果として、検証できればよい。目標値を定めるのであれば、根拠も必要だと思う。また、E委員からの質問にあった「誰に対して」の議論について確認するが、社会的、経済的要因から政策選択の範囲は一定程度に限られるものであり、その中で適切な政治や行政が行われるように、政策選択の範囲を絞ることが第4次総合計画の目標。各部会で検討されると思うが、指標が適正か確認して欲しい。個人的には活動指標が多いので、もう一度検討していただきたい、と考えている。

全体のフォーマットの話に戻る。たとえば、政策名の語尾が「まちづくり」

となっているものが多いなど、気になる点はないか。

F 委員： 大綱6都市形成のところ「まちづくり」の語尾は合っていないが、内容からすれば適切であると思う。統一することにこだわらなくてもいいのではないか。

会 長： 合わせようと思ったが合わなかったのであれば、無理に合わせる必要はないと思う。たとえば、箇条書きはシンプルな分、ロジックがわかりにくいところがある。いかがか。

E 委員： 市民に伝わりやすい方を選んでもらったほうが良い。

B 委員： 読む側からは、ストーリーがあったほうがよい。羅列になると前後関係がわかりにくい。

会 長： 現状のままとし、不都合が出た際には、再検討を行うこととする。

副 会 長： 以降は部会ごとの議論になるので、議論の質を揃えるために、共通理解を作っておきたい。施策指標と施策の関係を比較していただいて、この指標でこの施策の成果を測ることが妥当か、という視点で、一つひとつ見ていただきたい。そうした中で、指標を差替えるなどの検討をしてもよいのか、どうか。

事 務 局： 全てを指標で示すことはできないので、一つの切り口として掲載させていただいている。個別計画やアクションプランを検討する中で、課題が解決される施策になっているか。課題と指標がかけ離れているのであれば、ご意見いただきたい。

また、統計データを持っているという前提が指標にはある。統計データを持っていないものについては、根拠を明確に示せばよい、と考えている。

C 委員： データがあるかないかは重要だと思う。関連する主な個別計画で統計データを網羅しているのであれば、それは検討の際に資料として必要である。ご配慮いただければと思う。

事 務 局： 整理してお示ししたい。

B 委員： 指標として良いものがあるのに、データがないため目標から外すというのは良くないと思う。数値として示すのが難しい場合、数値にこだわらず、方向性を示すと良いのではないか。

事 務 局： いい指標であればそのように扱いたい。

会 長： すでにデータは色々とお持ちなので、その中から適切なものを選ぶだけでも良いものになると思う。取組の結果、状況が良くなったのか、悪くなったのか、市民目線でわかりやすいものとなるよう議論いただきたい。

F 委員： 目標の文末について、「まちを目指します」「まちづくりを進めます」が混ざっているのは、それでよいか。

事 務 局： なるべく統一しておくという方針で作っている。

D 委員： 現状と課題では、「必要です」と「必要があります」が混在しているが、使い分けているのか。

- 事務局： 同じ表現が続く、ということで変化をつけている程度である。わかりにくいなど、ご意見があれば伺いたい。
- 会長： たとえば、「する必要がある」と「する」では、意味が違うので、最終的に調整を行うこととしたい。
- 副会長： 同一内容なのに、文章に揺らぎがある部分もあり、精査する必要がある。
- G 委員： 施策の内容と施策指標の対応関係について、項目ごとに、施策の内容と指標をまとめたレイアウトにした方が見やすいのではないかと感じる。
- 会長： 事務局でご検討いただきたい。
- H 委員： 施策ごとに担当部を書きいただいているとわかりやすいが、市民の立場として、市役所にどれだけの担当部局があって、どのような部署があるのか把握していない。市役所の組織図があったほうが、わかりやすいのではないかと。よければ差し込んでいただきたい。
- 事務局： 付属資料として、時点的なものとして差し込むことは可能なので、検討する。
- E 委員： 「基本計画推進のために」についてだが、取組がひとつの部の中で完結することはほとんどなく、吹田市にはまだワンストップで相談できる場所がない。「基本計画推進のために」で、そうしたことをどこまで示していただけるのか。どう市民の声を受け止めて、市政の充実をどうしていくのかを、具体的に知りたい。
- 事務局： 具体的には書いていない。全分野に共通する基本姿勢、大きな方向性を示す予定である。
- E 委員： リレーインタビューなどは、何に反映されるのか。今後、市はこのような形で、市民の意見を吸い上げて進めていくから、市民の皆さんも頑張ってもらいたいということを、総合計画で見せていただきたい。
- 経験として行政に提案しても、断られてきた経緯がある。協働において、市ができないことを市民がやっているものであり、いかに税金を使わなくて済むようにするかが大切である。そのやり方が見えるような計画とすべきだと考える。
- I 委員： 行政の中の仕組みであるが、進行管理の仕組みについて、示せるようなら書いた方がよい。
- 会長： 「何を」は書かれているが、「どうやって」は総合計画の中に書かれていないケースが多い。市民が提案したことがどうやって反映されるのか、は難しいが、ただできないことではない。また、提案を議員に伝えてもらう方法もあると思う。横串をさしてもセクショナリズムは生まれてくるものなので、深くは書けなくとも、少し書いてほしい。
- C 委員： 指標について、アウトプット、アウトカムを分けた評価をすることが大事であり、「やりました」というよりは結果としてどうなったか、受け止め側の論理

評価、客観的評価・主観的評価を分けたうえでの評価指標を検討する必要がある。

会長： フォーマットの話と、各専門部会での進め方について、ある程度の方向性は見えたと思う。また次回お会いしたときに持ち寄って修正を進めていければと思う。

今後、基本計画（素案）については、部会での検討になる。本日の会議をこれで終了する。

**【事務連絡】**

事務局： 次回予定は、第1部会は8月17日（木）午後6時から低層棟3階 研修室、第2部会は8月21日（月）午後1時から高層棟4階 特別会議室を予定している。

# 出席状況一覧

第6回 吹田市総合計画審議会 平成29年(2017年)7月21日(金) 午後7時 開催

(選出区分毎の五十音順・敬称略)

No.	氏名	選出区分	略歴	出欠
1	足立 泰美	学識経験者 1号	甲南大学 経済学部 准教授	○
2	井元 真澄	学識経験者 1号	梅花女子大学 心理こども学部 教授	○
3	尾崎 雅彦	学識経験者 1号	大和大学 政治経済学部 教授	○
4	加賀 有津子	学識経験者 1号	大阪大学 大学院 工学研究科 教授	○
5	岸本 みさ子	学識経験者 1号	千里金蘭大学 生活科学部 講師	○
6	北村 亘	学識経験者 1号	大阪大学 大学院 法学研究科 教授	○
7	島 善信	学識経験者 1号	大阪教育大学 教職教育研究センター 特任教授	○
8	高橋 智幸	学識経験者 1号	関西大学 社会安全学部 教授	○
9	岡本 智子	市民 2号	公募市民	○
10	林 享佑	市民 2号	公募市民	○
11	水木 千代美	市民 2号	公募市民	○
12	横山 竜大	市民 2号	公募市民	×
13	亀谷 拓治	市内の公共的団体等の代表者 3号	豊二地区連合自治会 会長	×
14	下谷 明伸	市内の公共的団体等の代表者 3号	吹田市PTA協議会 会長	○
15	寺西 信昭	市内の公共的団体等の代表者 3号	アジェンダ21すいた 会員	○
16	南雲 稔子	市内の公共的団体等の代表者 3号	吹田市社会体育団体連絡会 副会長	○
17	堀田 稔	市内の公共的団体等の代表者 3号	吹田商工会議所 副会頭	○
18	御前 治	市内の公共的団体等の代表者 3号	一般社団法人 吹田市医師会 副会長	×
19	由佐 満雄	市内の公共的団体等の代表者 3号	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 会長	○
20	本屋 和宏	関係行政機関の職員 4号	大阪府政策企画部企画室 室長	○
出席委員 合計				17名

※選出区分の号は、吹田市総合計画審議会規則第3条第2号の各号による。

## 吹田市 出席者

事務局	後藤市長、春藤副市長、池田副市長
	稲田行政経営部長、川本理事(総合計画担当)、岡松企画財政室長、岡本企画財政室参事
	霜竹主査、船越主査、中嶋主査、松田主任、桑野係員
	委託業者